

季

四年
 画数 二 禾 季
 オン キ
 フン

成り立ち



稚(幼いこと年100)の意味の「禾」と「子」とを組み合わせて作った字です。

「幼い子」という意味の字で、兄弟の中の「末っ子」を表した字です。上の子が「孟」で、中の子が「仲」で末っ子を「季」と言ったのです。

それで春夏秋冬それぞれの初めの月を「孟月」、中の月を「仲月」、末の月を「季月」と言うようになり、季月は春夏秋冬の節目(変わり目)にあたるので「季節」とも言われました。今では、「季節」は、「春夏秋冬のうつり変わり」という意味に使われるようになり、また、「春夏秋冬」そのものの意味に使われ、季月の意味には使われなくなりました。また、「季」という字も今は「春夏秋冬」という「季節」の意味になってしまいました。

使い方

▽日本は、春夏秋冬の季節の変わり目がはっきりしています。国によっては、雨季と乾季しかないところもあります。四季の変化のある日本は、めぐまれた国といわなければなりません。

熟語例

- ▽季節(春夏秋冬のうつり変わり。また、四季のそれぞれ。「季節のうちでは、春がいちばん好きだ」などというふうには、つかいません。)
- ▽四季(春・夏・秋・冬の四つの季節。「日本は四季おりおりの風物にめぐまれて、たいへん美しい国である」などというふうには、つかいません。)
- ▽雨季(雨が長く降り続く季節。「雨季」とも書きます。)
- ▽乾季(一年のうちで、雨が少ない季節。「乾期」とも書きます。)
- ▽季語(俳句などで、季節を表す言葉を使います。「さみだれを集めて早し最上川」の「さみだれ」が、季語です。)

紀

四年
 画数 9
 筆順
 オン キ
 フン

成り立ち



糸まきから糸を引き出した形を表した「己(年876)」と、「糸」という字を組み合わせて作った字です。

「己」が「おのれ」という意味に使われるようになってきたため、本来の「糸ぐち」の意味を表す字として、糸を加えて「紀」としたものです。「糸ぐち」は糸の初めのところですから、「初め」という意味に使われます。[例]紀元。糸を使うときには糸ぐちを取ることが「もと」ですから、「物事をするときの「もと」となるもの」の意味に使われます。[例]綱紀、校紀、風紀。

「糸でくくる」ように、世の年代を百年ごとにくくった「世紀」という使い方もあります。また、「記(年108)」と同じ意味にも使われます。[例]行文、紀要。

使い方

▽今は二十世紀のおわりです。二十一世紀は、どんな世の中になっていくでしょう。平和で豊かな社会であると良いですね。

▽わたしは紀行文を読むのが好きです。まだ行ったことのない土地のようすを知ることができるからです。

熟語例

- ▽紀元(年数を数えるもとなる年。たとえば、西暦紀元元年は、イエス・キリストが生まれたと考えられた年でした。)
- ▽綱紀(物事をするときの、もとになるもの。とくに国の規律をいいます。「綱紀を肅正する」といえば、国の規律をひきしめることをいいます。)
- ▽校紀(学校内の風紀。「近ごろ、校紀が乱れて、困る」などというふうには、つかいません。)
- ▽風紀(社会の規律。「風紀を正す必要がある」などというふうには、つかいません。)
- ▽世紀(西暦で、紀元元年を初めとして、百年ずつを一世紀として区切ったもの)
- ▽紀行文(旅行中の見聞を書きつづった文章)